

【原著】

## CEFR-J から見た高等学校の改訂版検定 教科書の語彙の実態

八 島 等

The Actual Conditions of Revised Authorized Textbooks Used for  
Senior High School Students from the Viewpoint of the CEFR-J

Hitoshi Yashima

### 1. 研 究 動 機

20年以上前より、文脈からの未知語の意味推測に関する研究を始めて、先行研究の結果を基に、様々な未知語の割合で調査を行ってきた（八島, 1996, 1999; Yashima, 2001, 2002, 2003）。先行研究では、「未知語の割合」よりは、「語彙カバー率」(lexical coverage) という用語が頻繁に用いられており、98%の語彙カバー率（50語に1語の未知語の割合）が最近の研究では支持されている（Hu and Nation, 2000; Schmitt, Jiang, and Grabe, 2011）。しかし、Carver（1994）は、英語母語話者でさえも99%の語彙カバー率（100語に1語の未知語の割合）が必要であると提唱している。そこで、6年前に、日本人英語学習者（高校生）にとって文脈からの意味推測のために「最適な」未知語の割合を求めて、50語、60語、80語、100語に1語という4つの割合で調査した。その結果、100語に1語の場合、語彙サイズが3,000語（word family）程度あれば、平均で60%以上の、4,000語程度あれば、平均で80%以上の、それぞれ推測成功率が得られることがわかった。また、80語に1語（98.75%の語彙カバー率）の場合でも、語彙サイズが4,000語程度あれば、推測成功率は平均で80%以上であることがわかった（八島, 2013）。

また、4年前、読解に関して、98%以上の語彙カバー率の題材の内容を、実際には、どの程度理解することができるのかを調査した。その結果、98%の語彙カバー率では、読解問題の正答率は平均で52.17%であった。語彙カバー率が99%の場合のみ、平均で60%以上（60.80%）の読解問題の正答率を得ることができた。この調査結果から、日本人英語学習者（以下、学習者）には、98%の語彙カバー率は「適切な」ものとは言えないことが判明した。（八島, 2015）。

以上の2つの研究から、学習者にとっては、Carver（1994）が提唱する99%の語彙カバー率が最低必要であると考えられる。

しかし、実際に、学習者はその99%の語彙カバー率に達するために、どのような語を何語程度習得すればよいのであろうか。そこで、参考となるのが『JACET 8000』である。しかし、最近注目を集めているのが欧州評議会（Council of Europe）が2001年に公表した言語能力の到達度指標である *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*（学習、教授、評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠）、略称、CEFRである。英語に限らず、外国語に関する言語能力をA（基礎段階の言語使用者）、B（自立した言語使用者）、C（熟達した言語使用者）の3つのレベルに大きく分け、それをさらに、A1・A2、B1・B2、C1・C2の合計6段階のレベルに分けて表している。

その CEFR を日本に導入するために、構築されたのが CEFR-J である。そのプロジェクトの中で、CEFR-J Wordlist が作成され、A1は1165語、A2は1416語、B1は2453語、B2は2788語の合計7822語が収められている（投野（2013）では「語」ではなく、「項目」となっている）。また、総異なり語数を見てみると、A1は1052語、A2は1211語、B1は2100語、B2は2394語の合計6757語で、現行の学習指導要領が示す2950語の2.32倍である。

そこで、CEFR-J に収められている語がどの程度『JACET 8000』に載っているのかを調査した。その結果、A1で85語、A2で209語、B1で453語、B2で980語の合計1727語が『JACET 8000』には載っていないことがわかった。それは、実に、CEFR-J に収められている語のうち、5分の1以上の22.08%に当たる。レベルが上がるにつれて、載っていない語の数が増えることがわかった（八島，2016）。

以上のことから、CEFR-J は、『JACET 8000』とかなりの乖離があることが判明した。しかし、CEFR-J は、今後の日本の英語教育に大きな影響を及ぼすものと考えられる。従って、日本の英語教育の根幹である検定教科書が CEFR-J をどの程度カバーしているのかを調査することは非常に重要であると考えた。

## 2. 研究目的

本研究の主な目的は、CEFR-J に収められている語がどの程度、高等学校の検定教科書で用いられているのかを調査することである。そのために CEFR-J の収録語と改訂されたコミュニケーション英語 III の教科書の収録語との対応を調査した。

## 3. 研究方法

### 3.1 使用テキスト

使用したのは投野（2013）の附属 CD-ROM と以下の3冊の改訂版検定教科書である。

- *CROWN English Communication III* (New Edition) (以下、*CROWN*)
- *Revised ELEMENT English Communication III* (以下、*ELEMENT*)
- *PRO-VISION English Communication III* (New Edition) (以下、*PRO-VISION*)

*English Communication III* は初級・中級・上級の3種類、合計38冊発行されている。本研究では、前述の CEFR-J の特徴と高等学校英語教育に対する影響を考えて、上級の教科書の中で採択冊数が上位1から3位（全体では2・7・11位）を選んだ。*English Communication III* の語彙リストには I・II の語も収録されている。また、中学既習とみなされている語も収録されている。しかし、*ELEMENT* や *PRO-VISION* では、I・II で収録されていない語が既習語として収録されていたり、その逆があったりしたので、*English Communication I・II* における収録語をすべて確認し直した。その後で、A1からB2までの7822語と検定教科書で用いられている語との共通性・相違性を調査した。

### 3.2 研究手順及びデータ分析の方法

まず、CEFR-J と改訂版検定教科書との対応を調査した。改訂版検定教科書の語彙リストに載っている語を入力した。但し、人名は除いた。その後、A1からB2までの4つのレベル、及

びそれ以外の5つに分類した。*ELEMENT* や *PRO-VISION* は、語彙リストには、本文中に使用された語のみしか収められていないので、本文以外の頁の語も調査して同様に入力・分類した。その後で、A1からB2までの4つのレベル、及びそれ以外の5つの項目に何語含まれているのかを最初は3冊別々に、次に3冊の合計でそれぞれ調べた。最後に、A1の中で3冊の検定教科書に出現しない語を特定し、その語にはどのような特徴があるのかを考察した。

## 4. 結 果

### 4.1 *CROWN English Communication III* (New Edition) の収録語の状況

*CROWN* では、A1からB1までがそれぞれ20%前後を占め、B2が10%程で、それ以外の語が30%弱を占めている。A1からB1までがバランスよく収録されている。A1とA2は *English Communication I* で大半を学び、B1とはB2は3年間、同じような数を学ぶような構成になっている。もう少し詳細に述べると、A2に関しては、*English Communication II* においても22%程を学ぶことになり、B1に関しては *English Communication I* で、B2に関しては *English Communication II* で、それぞれ、他学年よりも多く学ぶようになっている(表1)。

表1 *CROWN English Communication III* (New Edition) の収録語の CEFR-J の各レベルの分布状況

| 学年     | I     | II    | III   | 合計     | 割合 (%) |
|--------|-------|-------|-------|--------|--------|
| A1     | 945語  | 30語   | 26語   | 1001語  | 23.55  |
| A2     | 534語  | 181語  | 92語   | 807語   | 18.99  |
| B1     | 329語  | 262語  | 232語  | 823語   | 19.36  |
| B2     | 125語  | 180語  | 152語  | 457語   | 10.75  |
| それ以外の語 | 506語* | 317語* | 339語* | 1162語* | 27.34  |
| 合計     | 2439語 | 970語  | 841語  | 4250語  |        |

\*それ以外の語の中には、品詞違いの語が、I からそれぞれ、86語、7語、7語の合計100語含まれている。

*CROWN* における CEFR-J の各レベルのカバー率を見ると、A1は86%、A2は57%、B1は34%、B2は16%となっている。このことから、*CROWN* は、A1はほぼカバーしているものの、A2は6割弱しかカバーしていないことがわかった。また、B1とB2に関してはカバー率が極めて低いことがわかった(表2)。

表2 *CROWN English Communication III* (New Edition) の収録語の CEFR-J の各レベルのカバー率

| 学年         | I    | II   | III  | 合計    | 割合 (%) |
|------------|------|------|------|-------|--------|
| A1 (1165語) | 945語 | 30語  | 26語  | 1001語 | 85.92  |
| A2 (1416語) | 534語 | 181語 | 92語  | 807語  | 56.99  |
| B1 (2453語) | 329語 | 262語 | 232語 | 823語  | 33.55  |
| B2 (2788語) | 125語 | 180語 | 152語 | 457語  | 16.39  |

### 4.2 *Revised ELEMENT English Communication III* の収録語の状況

*ELEMENT* では、A1からB1までがそれぞれ20%以上を占め、B2が10%程で、それ以外の語が残りの20%強を占めているが、*CROWN* 以上に、A1からB1までが非常にバランスよく収録さ

れている。A1とA2はEnglish Communication Iで大半を学び、B1とはB2は3年間、同じような数を学ぶような構成になっていることもCROWNと同様である。もう少し詳細に述べると、A2に関しては、English Communication IIにおいても27%程を学ぶことになり、B1とB2に関しては、English Communication IIで、他学年よりも多く学ぶことになっている。この点についてはCROWNとは違っている（表3）。

表3 Revised ELEMENT English Communication III の収録語の CEFR-J の各レベルの分布状況

| 学年     | I     | II    | III   | 合計    | 割合 (%) |
|--------|-------|-------|-------|-------|--------|
| A1     | 824語  | 76語   | 20語   | 920語  | 22.37  |
| A2     | 507語  | 223語  | 95語   | 825語  | 20.06  |
| B1     | 326語  | 376語  | 221語  | 923語  | 22.45  |
| B2     | 123語  | 204語  | 149語  | 476語  | 11.58  |
| それ以外の語 | 288語* | 382語* | 298語* | 968語* | 23.30  |
| 合計     | 2068語 | 1261語 | 781語  | 4112語 |        |

\*それ以外の語の中には、品詞違いの語が、Iからそれぞれ、65語、32語、21語の合計118語含まれている。

ELEMENTにおけるCEFR-Jの各レベルのカバー率を見ると、A1は79%、A2は58%、B1は38%、B2は17%となっている。このことから、ELEMENTにおいても、A1は、CROWN程ではないが、かなりの部分をカバーしているものの、A2は6割弱しかカバーしていないことがわかった。また、B1とB2に関しては、CROWNと同様に、カバー率が極めて低いことがわかった（表4）。

表4 Revised ELEMENT English Communication III の収録語の CEFR-J の各レベルのカバー率

| 学年         | I    | II   | III  | 合計   | 割合 (%) |
|------------|------|------|------|------|--------|
| A1 (1165語) | 824語 | 76語  | 20語  | 920語 | 78.97  |
| A2 (1416語) | 507語 | 223語 | 95語  | 825語 | 58.26  |
| B1 (2453語) | 326語 | 376語 | 221語 | 923語 | 37.63  |
| B2 (2788語) | 123語 | 204語 | 149語 | 476語 | 17.07  |

#### 4.3 PRO-VISION English Communication III (New Edition) の収録語の状況

PRO-VISIONにおいても、CROWNと同様に、A1からB1までがそれぞれ20%前後を占めているが、B2の割合は他の2冊よりも幾分多めの13%で、それ以外の語が30%強を占めている。A1～B1までがバランスよく収録されていることは他の2冊と共通している。A1とA2はEnglish Communication Iで大半を学ぶのに対して、B2は3年間、同じような数を学ぶような構成になっていることも他の2冊と同様である。しかし、B1に関しては、English Communication Iで半数近くを学ぶことが、他の2冊との大きな違いである。また、他のレベルに関しても、もう少し詳細に述べると、A2に関しては、English Communication IIでは全体の17%程しか学ばないことになり、B2に関しては、English Communication IIIで、他学年よりも多く学ぶことになっている。この点についても他の2冊とは違っている（表5）。

表5 *PRO-VISION English Communication III* (New Edition) の収録語の CEFR-J の各レベルの分布状況

| 学年     | I     | II    | III   | 合計     | 割合 (%) |
|--------|-------|-------|-------|--------|--------|
| A1     | 905語  | 35語   | 25語   | 965語   | 17.43  |
| A2     | 653語  | 157語  | 99語   | 909語   | 16.42  |
| B1     | 534語  | 370語  | 290語  | 1194語  | 21.57  |
| B2     | 206語  | 228語  | 272語  | 706語   | 12.76  |
| それ以外の語 | 538語* | 460語* | 763語* | 1761語* | 31.82  |
| 合計     | 2439語 | 970語  | 841語  | 4250語  |        |

\*それ以外の語の中には、品詞違いの語が、I からそれぞれ、58語、27語、29語の合計114語含まれている。

*PRO-VISION* における CEFR-J の各レベルのカバー率を見ると、A1は83%、A2は64%、B1は49%、B2は25%となっている。このことから、*PRO-VISION* においても、A1は、*CROWN* 程ではないが、かなりの部分をカバーしているものの、A2は6割強しかカバーしていないことがわかった。また、B1は、他の2冊とは違い、5割近くをカバーしていることが*PRO-VISION* の大きな特徴と言える。B2に関しては、他の2冊と同様に、カバー率が極めて低いが、他の2冊よりはカバー率が高いことがわかった(表6)。

表6 *PRO-VISION English Communication III* (New Edition) の収録語の CEFR-J の各レベルのカバー率

| 学年         | I    | II   | III  | 合計    | 割合 (%) |
|------------|------|------|------|-------|--------|
| A1 (1165語) | 905語 | 35語  | 25語  | 965語  | 82.83  |
| A2 (1416語) | 653語 | 157語 | 99語  | 909語  | 64.19  |
| B1 (2453語) | 534語 | 370語 | 290語 | 1194語 | 48.68  |
| B2 (2788語) | 206語 | 228語 | 272語 | 706語  | 25.32  |

#### 4.4 3冊の検定教科書の合計の収録語の状況

3冊の検定教科書の合計で見ると、A1からB2まで非常にバランスよく収録されていることがわかる。B1が20%で、残りの3つのレベルがそれぞれ13.5%前後になっており、それ以外の語が40%弱を占めている。A1とA2はEnglish Communication I で大半を学ぶのに対して、B2は3年間、同じような数を学ぶような構成になっていることや、B1は、English Communication I で半数近くを学ぶことになっているのは*PRO-VISION* と同じ構成と言える。また、他のレベルに関しても、もう少し詳細に述べると、A2に関しても、English Communication II において16%程しか学ばないことになり、*PRO-VISION* と同じ構成と言える。しかし、B2に関しては、English Communication II で、他学年よりも多く学ぶことになっているのは*CROWN* や*ELEMENT* と同じ構成と言える(表7)。

表7 3冊の検定教科書の合計の収録語の CEFR-J の各レベルの分布状況

| 学年     | I     | II     | III    | 合計     | 割合 (%) |
|--------|-------|--------|--------|--------|--------|
| A1     | 1047語 | 26語    | 17語    | 1090語  | 13.39  |
| A2     | 857語  | 178語   | 80語    | 1115語  | 13.69  |
| B1     | 798語  | 514語   | 317語   | 1629語  | 20.01  |
| B2     | 371語  | 436語   | 335語   | 1142語  | 14.03  |
| それ以外の語 | 960語* | 1038語* | 1168語* | 3166語* | 38.88  |
| 合計     | 4033語 | 2192語  | 1917語  | 8142語  |        |

\*それ以外の語の中には、品詞違いの語が、I からそれぞれ、111語、47語、45語の合計203語含まれている。

3冊の検定教科書の合計における CEFR-J の各レベルのカバー率を見ると、A1は94%、A2は79%、B1は66%、B2は41%となっている。このことから、3冊の検定教科書を合計すると、A1は、ほぼすべてをカバーしており、A2も8割弱をカバーしていることがわかった。また、B1は7割弱、B2は4割をそれぞれカバーしていることがわかった。1冊では、特にB1とB2のカバー率が低く、B1では4割前後、B2では2割前後しかそれぞれカバーできていない状態なので、3冊を合計すると、CEFR-Jの各レベルにかなり対応できることがわかった（表8）。

表8 3冊の検定教科書の合計の収録語の CEFR-J の各レベルのカバー率

| 学年         | I     | II   | III  | 合計    | 割合 (%) |
|------------|-------|------|------|-------|--------|
| A1 (1165語) | 1047語 | 26語  | 17語  | 1090語 | 93.56  |
| A2 (1416語) | 857語  | 178語 | 80語  | 1115語 | 78.74  |
| B1 (2453語) | 798語  | 514語 | 317語 | 1629語 | 66.41  |
| B2 (2788語) | 371語  | 436語 | 335語 | 1142語 | 40.96  |

#### 4.5 A1の中で3冊の検定教科書に出現しない語

3冊の検定教科書のいずれにも出現しなかった語は41語あった。CEFR-Jは語の品詞ごとにレベル分けをしている。例えば、address (n) はA1だが、address (n) はB1である。逆に、advance (v) はB1だが、advance (n) はB2である。従って、例えば、both は、限定詞や代名詞、副詞がA1に分類されているが、限定詞や代名詞としては検定教科書に出現しているが、副詞としては出現していないという結果になった。この both のような語は、実際に、ある品詞では検定教科書に出現しているので、ここでは除いている。また、CEFR-Jには all right のような2語からなる句も収録されているが、ここではそのような句も除外している。

A1という最も基本的なレベルの語は、ほぼすべて検定教科書に出現しているはずであると予測していたが、実際には、上記の通り、1冊では最高でも86%のカバー率で、3冊を合計すると94%程のカバー率になった。その残りの6%程の中に含まれる語が表9に示した41語である。その中でアスタリスク(\*)をつけた17語は、他の品詞でA2以降のレベルで収録されているものである。この17語はすべて、他の品詞では、mobile, pardon, sawを除いて、すべての教科書に出現しており、除外した3語もいずれかの教科書には出現している（表9）。

表9 A1 (1165語) の中で3冊の検定教科書に出現しない語（品詞違いで収録されている語・2語は除く）

|  |
|--|
| biscuit; boyfriend; broken; bucket; *check (n); cinema; *climb (n); closed; coke; cop; *dig (n); *drive (n); *feed (n); *flat (n); foggy; *front (adj); glasses; haircut; kite; *match (n); *mobile (n); mum; *need (ml); *off (adj); palace; pants; paragraph; *pardon (n); *past (prep) (adj); picnic; reading; sailor; saw (n); *shake (n); smith; spy; sunshine; *throw (n); turkey; waitress; *wake (n) |
| *check (v) はA2 *climb (v) はA2 *dig (v) はB1 *drive (v) はA2 *feed (v) はB1 *flat (adj) はB2<br>*front (n) はA2 *match (v) はB1 *mobile (adj) はA2 *need (v) はA2 (n) はB2 *off (adv) はA2 (prep) はB1<br>*pardon (v) はB1 *past (adj) はB1 *saw (v) はB2 *shake (v) はB1 *throw (v) はA2<br>*wake (v) はB1  |

この41語にどのような特徴があるのかを見てみると、biscuit や pants などの「生活関連用語」や、drive や picnic といった「行楽・余暇関連用語」がまず目についた。また、climb や dig などの語は、上記の通り、動詞としては検定教科書に出現しているの、特徴として挙げた。



さらに、cop や spy などの語は「教科書には馴染みにくそうな語」という分類名にした。最後に、broken や closed は形容詞として CEFR-J に収録されているので、「形容詞化された過去分詞」という分類名にした（表10）。

表10 A1（1165語）の中で3冊の検定教科書に出現しない語の特徴

- 
- ・生活関連用語（食品：衣料品など）：biscuit; bucket; *coke*; glasses; haircut; pants; ribbon; *saw*; turkey
  - ・行楽・余暇関連用語：*climb*; *drive*; picnic
  - ・動詞としては出現している語：*climb*; dig; *drive*; feed; need; *pardon*; *saw*; shake; throw; wake
  - ・教科書には馴染みそうにない語：boyfriend; *coke*; cop; spy
  - ・職業名：sailor; smith; waitress
  - ・イギリス英語：cinema mum; need
  - ・授業関連語：advanced; reading
  - ・天候：foggy; sunshine
  - ・建物：palace
  - ・挨拶：*pardon*
  - ・形容詞化された過去分詞：broken; closed
- 

イタリック体の語は複数の分類項目に属する語

## 5. 考 察

### 5.1 3冊の検定教科書の収録語の状況の比較

まず、3冊の検定教科書を比較すると、総語数に対してA1からB2の占める割合に大きな相違はないことがわかった。A1からB1までがそれぞれ20%前後を占めて、B2は10%程度であった。中でも *ELEMENT* は、A1からB1までの割合が、それぞれ20%以上になっており、最もバランスの取れた構成と言える。B2に関しては、*PRO-VISION* が若干ではあるが、最も総語数に対して占める割合が高かった。

また、A1からB2の学習学年を見てみると、3冊とも、A1とA2は大半を1年次に学習するようになっていた。それに対して、B1とB2は3年間、同じような数を学習するようになっていたものが *CROWN* と *ELEMENT* の2冊、B2は3年間、同じような数を学習するようになっていたものの、B1は1年次に半数近くを学習するようになっていたのが *PRO-VISION* と分かれた。

もう少し詳細に見てみると、A2に関しては、2年次において、*PRO-VISION* では全体の17%程しか学習しないようになっていたのに対して、*CROWN* では22%程、*ELEMENT* では27%程をそれぞれ学習するようになっており、3冊で10%程度の違いが見られた。B1に関しては、*CROWN* と *PRO-VISION* では、それぞれ1年次で最も多く学習することになっていたのに対して、*ELEMENT* では2年次で最も多く学習することになっていた。最後に、B2においては、*CROWN* と *ELEMENT* では、それぞれ2年次で最も多く学習することになっていたのに対して、*PRO-VISION* では3年次で最も多く学習することになっていた。35年間高等学校の英語教師をしていた経験から、CEFR-JのB1とB2は、学習者にはかなり難しい語が数多く含まれていると言える。研究動機でも述べた通り、CEFR-Jの総異なり語数を見てみると、A1とA2で2263語となり、現行の学習指導要領が示す2950語に迫るものがあり、それにB1の2100語を加えると、その約1.5倍になってしまう。できれば、B1は2年次が、B2は3年次がそれぞれ最も多く学習するような教科書が理想的なのではないかと思われる。

次に、3冊の検定教科書をCEFR-Jの各レベルのカバー率の観点から比較すると、A1では、

*CROWN* が86%と最も高く、以下、*PRO-VISION* が83%、*ELEMENT* が最も低く79%であった。調査前の予想としては、A1のカバー率は90%を超えると考えていたので、3冊のいずれもが9割未満であったことに驚きを感じた。また、A2では、*PRO-VISION* が64%と最も高く、以下、*ELEMENT* が58%、*CROWN* が最も低く57%であった。調査前の予想としては、A2のカバー率は70%は超えてもらいたいと期待していたので、3冊のいずれもが7割未満であったことは少し期待外れであった。

B1に関しては、*PRO-VISION* が49%と最も高く、以下、*ELEMENT* が38%、*CROWN* が最も低く34%であった。B1やB2は、前述の通り、学習者には難しいので、B1のカバー率は50%未満であろうと予測していたので、その予測通りの結果となった。また、B2に関しても、*PRO-VISION* が25%と最も高く、以下、*ELEMENT* が17%、*CROWN* が最も低く16%であった。B2のカバー率は、B1よりもさらに難易度が高いことを考慮して、30%未満であろうと予測していたので、その予測通りの結果となった。その中でも、*PRO-VISION* がB1・B2ともに私の予測する最高値に近いカバー率であったことに感心した。

## 5.2 3冊の検定教科書の合計の収録語の状況

3冊の検定教科書の合計で見ると、前述の通り、A1からB2まで非常にバランスよく収録されていることがわかる。B1が20%で、残りの3つのレベルがそれぞれ13.5%前後になっており、それ以外の語が40%弱を占めている。1冊ではなかなかそのようにはいかないこと前述の通りである。強いて言えば、*ELEMENT* がそれに一番近い構成になっているが、それでもB2が占める割合が低い。

また、A1からB2の学習学年を見てみると、A1とA2は大半を1年次に学習するようになっていた。それに対して、B1とB2は3年間、同じような数を学習するようになっていた。このことは、3冊に共通する大まかな特徴に近いものがある。

もう少し詳細に見てみると、A2に関しては、2年次において、全体の16%程しか学習しないようになっていた。この構成は*PRO-VISION* に似たものと言える。B1に関しては、1年次で最も多く学習することになっていた。全体の49%程を1年次で学習するようになっており、この構成も*PRO-VISION* に似たものと言える。最後に、B2においては、2年次で最も多く学習することになっていた。全体の38%程を2年次で学習するようになっており、この構成は*CROWN* と*ELEMENT* に似たものと言える。個人的な意見としては、前述の理由から、B1は2年次に、B2は3年次にそれぞれ最も多く学習するような構成の教科書が望まれる。

3冊の検定教科書の合計におけるCEFR-Jの各レベルのカバー率を見ると、前述の通り、A1は94%、A2は79%、B1は66%、B2は41%となっている。1冊では、最高でも、A1は85%、A2は64%、B1は49%、B2は25%しかそれぞれカバーできていない状態なので、3冊を合計すると、先程述べたカバー率の予測値をすべてのレベルで超えるものとなることがわかった。すなわち、3冊を合計すると、CEFR-Jの各レベルにかなり対応できるということである。とりわけ、B1とB2のカバー率が飛躍的に向上することがわかった。

## 5.3 A1の中で3冊の検定教科書に出現しない語の特徴

3冊の検定教科書のいずれにも出現しなかった41語の特徴を、「生活関連用語」や「行楽・余暇関連用語」といった分類項目で表現してみた。すると、いずれの語も、教科書には出現しにくいこと語であることがわかった。cop や spy などの「教科書には馴染みにくそうな語」はもちろん、biscuit や pants などの「生活関連用語」や、drive や picnic といった「行楽・余暇関



連用語」をはじめとして、sailor や smith などの「職業名」や、foggy や sunshine といった「天候」を表す語も教科書には使用されづらいと思われる。

また、日本の中学校の検定教科書はアメリカ英語で統一されている。高等学校の検定教科書も基本的にアメリカ英語が使用されている。そのため、cinema や mum などの「イギリス英語」は検定教科書に出現しにくいのである。

さらに、climb や drive などの語が CEFR-J の A1にあるように名詞として使用されている教科書を今までに見たことがない。これは私見ではあるが、英語は名詞を好む言語、日本語は動詞を好む言語ということが日本の検定教科書の編纂に反映されているのかもしれない。

## 6. 教育上の示唆

今回の調査で、3冊の検定教科書とも、A1からB2まで比較的バランスよく収録されており、総語数に対して占める割合に大きな相違はないことがわかった。すなわち、いずれの教科書を採用しても、CEFR-Jの各レベルの収録語を数的にある程度同じように学習できるということである。しかし、A1からB2の学習学年を見てみると、3冊とも、A1とA2は大半を1年次に学習するようになっていたが、B1とB2に関しては相違が見られた。B1に関しては、2冊は1年次で最も多く学習することになっていたのに対して、1冊は2年次で最も多く学習することになっていた。B2においては、2冊は2年次で最も多く学習することになっていたのに対して、1冊は3年次で最も多く学習することになっていた。B1やB2の語は学習者にとって難しいので、採用した教科書の特徴を知り、そこに出現する語をすべて一律に覚えさせるのではなく、学年を追って覚えさせるといった3年間を見据えた指導が必要であろう。

また、3冊の検定教科書の合計における CEFR-J の各レベルのカバー率は、A1は94%、A2は79%、B1は66%、B2は41%であることがわかった。1冊では、最高でも、A1は85%、A2は64%、B1は49%、B2は25%しかそれぞれカバーできていない状態なので、3冊を合計すると、CEFR-Jの各レベルにかなり対応できるということである。そこで、普段から、採用した教科書以外の最低でも2冊の教科書の語彙リストを確認して、使用している教科書には収録されていない CEFR-J の語を投げ込み教材として学習者に提供していくことが重要であろう。

最後に、3冊の検定教科書のいずれにも出現しなかった語が41語あり、その特徴がわかった。その特徴から、高等学校の検定教科書には出現しにくい語であることが判明した。しかし、その中の「生活関連用語」や「行楽・余暇関連用語」、「天候」といった語は、来年度からの小学校5・6年の英語教科化により、教科書に入ってくるのではないかと推測される。また、中学校の検定教科書にも、入る、または、すでに入っている可能性もある。従って、高等学校の検定教科書に出現していないことをそれほど問題視する必要はないかも知れない。

## 7. 今後の課題

今回、CEFR-Jの収録語と3冊の検定教科書の収録語との対応を調査したが、3冊とも、A1からB2以外の語が30%以上あった。CEFR-Jの収録語のリストはあるが、それが、どの程度、実際に役に立つのかは研究されていない。そこで、今後は、CEFR-Jの収録語の有用度の研究が必要であろう。

- Carver, R. P. (1994). Percentage of unknown vocabulary words in text as a function of the relative difficulty of the text: Implications for instruction. *Journal of Reading Behavior*, 26(4), 413-437.
- Hirsh, D., & Nation, I. S. P. (1992). What vocabulary size is needed to read unsimplified texts for pleasure? *Reading in a Foreign Language*, 8(2), 689-696.
- Hu, M., & Nation, I. S. P. (2000). Unknown vocabulary density and reading comprehension. *Reading in a Foreign Language*, 13(1), 403-430.
- Laufer, B. (1989). What percentage of text lexis is essential for comprehension? In C. Lauren & M. Nordman (Eds.), *Special language: From humans thinking to thinking machines* (pp. 316-323). Clevedon: Multilingual Manners.
- Laufer, B. (1992). How much lexis is necessary for reading comprehension? In H. Bejoint & P. Arnaud (Eds.), *Vocabulary and applied linguistics* (pp. 126-132). Basingstoke & London: Macmillan.
- Laufer, B., & G. C. Ravenhorst-Kalovski. (2010). Lexical threshold revisited: Lexical text coverage, learners' vocabulary size and reading comprehension. *Reading in a Foreign Language*, 22(1), 15-30.
- Liu Na, & Nation, I. S. P. (1985). Factors affecting guessing vocabulary in context. *RELC Journal*, 16(1), 33-42.
- Nation, I. S. P. (2001). *Learning vocabulary in another language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Nation, I. S. P. (2006). How large a vocabulary is needed for reading and listening? *The Canadian Modern Language Review*, 63, 59-82.
- Nation, I. S. P., & Beglar, D. (2007). A vocabulary size test. *The Language Teacher*, 31(7), 9-13.
- Nation, I. S. P., & Coady, J. (1988). Vocabulary and reading. In R. Carter & M. McCarthy (Eds.), *Vocabulary and language teaching* (pp. 97-110). London: Longman.
- Nation, I. S. P., & Waring, R. (1997). Vocabulary size, text coverage and word lists. In N. Schmitt & M. McCarthy (Eds.), *Vocabulary: Description, acquisition and pedagogy* (pp. 6-19). Cambridge: Cambridge University Press.
- Schmitt, N., Jiang, X., & Grabe, W. (2011). The percentage of words known in a text and reading comprehension. *The Modern Language Journal*, 95(1), 26-43.
- Schmitt, N., Schmitt, D., & Capham, C. (2001). Developing and exploring the behavior of two new versions of the Vocabulary Levels Test. *Language Testing*, 18(1), 55-88.
- Yashima, H. (2001). Word inference ability in Japanese EFL learners, *ARELE*, 12, 101-110.
- Yashima, H. (2002). Factors affecting guessing unknown word meanings from context, *ARELE*, 13, 151-160.
- Yashima, H. (2003). Analysis of senior high school students' ability to guessing unknown word meanings from context, *ARELE*, 14, 161-170.
- 『CEFR-J Wordlist Version 1.0』. (2013). 東京外国語大学投野由紀夫研究室.
- 投野由起夫. (2013). 『英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』. 東京：大修館書店.
- 羽鳥博愛. (1979). 「リーディングテスト作成上の留意点」. 羽鳥博愛他（編）『英語指導法ハンドブック④ 評価編』（pp. 107-121）. 東京：大修館書店.
- 八島 等. (1996). 「検定教科書での未知語の推測」. 『語学教育研究所紀要』第10号, 35-42
- 八島 等. (1999). 「未知語の割合と文脈からの意味の推測の関係及び推測に影響を与える他の要因」. 『語学教育研究所紀要』第13号, 31-49.
- 八島 等. (2013). 「文脈からの推測のための最適な割合と語彙サイズを求めて」. 『日本教科教育学会第39回全国大会論文集』, 106-107.
- 八島 等. (2015). 「日本人英語学習者における語彙カバー率と読解との関係」. 『日本教科教育学会第41回全国大会論文集』, 138-139.
- 八島 等. (2016). 「これからの日本人英語学習者が習得すべき語彙の実態」. 『日本教科教育学会第42回全国大会論文集』, 46-47.
- 渡辺敦司. (2019). 「英語Ⅲ、高学年周期でも冊数減●19年度高校教科書採択状況—文科省まとめ（下）」. 内外教育, 第6730号, 12-19.